

えひめの歴史文化モノ語り

県歴博収蔵資料から①

愛媛の歴史や民俗文化を学ぶ拠点、県歴史文化博物館(西予市)。1994年の開館以来、23年近くにわたり膨大な資料を収集してきた。その中から逸品を学芸員が選り出し、最新の研究成果や現場ならで

はの「こぼれ話」も交えながら分かりやすく紹介する。

◇ ◇

文化

久万高原町の上黒岩岩陰遺跡が発見されて、今年では56年。これまで本遺跡では5回の発掘調査が行われ、約1万4500年前の縄文土器をはじめ、女性像を描いたとされる線刻礫(せんこくれき)いわゆる女神石、日本最古の埋葬犬の骨、骨角器(こっかくき)

上黒岩岩陰遺跡の石材



上黒岩岩陰遺跡から見つかった縄文時代の石鏃(せきぞく、左)と石錐(県歴史文化博物館保管)

料として高く評価されている。2009年には、ようやく詳細な報告書が刊行され、遺跡の重要性が再認識されてきた。しかしまだ出土遺物は各地の大学等に散在した状態であり、中には整理・報告されていない資料も存在している。

当館にも保管資料があり、昨年度に県内外の研究者と共同で再整理を行った。その作業の一つとして、分析前はせいぜい四国内の香川県産のサヌカイトを想定していたが、上黒岩岩陰遺跡から直線距離で300キロ離れた場所から海を越えて運ばれてきた可能性が高まった。このことから、閉鎖的な文化圏として捉えられがちな四国山間部が、

たため、蛍光エックス線分析を実施した。その結果、孔(あな)を開ける道具である石錐(せきすい)に使われている石材が奈良県と大阪府にまたがる二上山(にじょうざん)の組成(せいせい)と非常に近く、近畿地方原産のサヌカイトが使われている可能性が示された。

(専門学芸員・兵頭勲)

× ×

掲載資料は、県歴史文化博物館のテーマ展「久万高原町発掘50年の足跡」で9月3日まで展示中。

△月2回掲載します▽

縄文時代海越え交流か

が突き刺さった状態の人骨など膨大な遺物が出土した。これらは日本の先史時代に探る上で、第一級の資料がどこの産地か調べる